

令和8年度（2026年度）第1回環境基本計画推進委員会 議事録

- 1 日 時 令和8年（2026年）6月5日（金）午後2時～午後3時40分
- 2 場 所 501会議室
- 3 出席者 山本 隆明、佐藤 剛彦、安部 浩通、近藤 高史、新井 宝造、白羽 圭子、吉村 暁夫、大東 憲二、吉鶴 弥生、龍田 昭一、毛利 まり子（委員11名、敬称略）
生活環境課長、生活環境課生活環境・環境対策グループ主幹、ゼロカーボン戦略室統括主任、生活環境課主任2名、リサイクル推進課統括主任（事務局6名）
- 4 欠席者 平井 正吉（委員1名）
- 5 会議の公開 公開
- 6 傍聴者 0名
- 7 内容

(1) 委員長挨拶

山本委員長より挨拶を行った。

(2) 部会長挨拶

人事異動に伴う委員の交代があったため、新規委員である佐藤部会長及び安部部会長より挨拶を行った。

また、事務局より、昨年度アドバイザー職であった千頭アドバイザーの退任について状況報告、今後の対応等について説明を行った。

(3) 説明事項

令和8年度（2026年度）のスケジュールについて、事務局から資料を用いて説明を行った。

委員からの意見なし。

(4) 協議事項

ア 環境基本計画年次報告書（案）について

事務局から資料を用いて説明を行い、各部会で指標及び施策ごとの取り組み内容等について疑問点等を洗い出した。その後、佐藤部会長が生活環境保全・自然共生部会で話し合った内容を、安部部会長が気候変動対策・循環型社会部会で話し合った内容を報告した。

（佐藤部会長委員）：生活環境保全・自然共生部会では、環境の柱（1生活環境保

全) について、事務局からの企業側の降下ばいじんを減らすための取組について説明があり、市民アンケート実施結果から改善されていない課題について話し合いを行った。この中で、降下ばいじんを減らすための企業の取組内容を知る手段を増やす必要があることや降下ばいじん量をゼロにすることは不可能であることから、現実的な目標数値をどこに定めるべきなのか等の意見があった。

環境の柱2（自然共生）について、事務局からの生物調査について説明があり、生物調査後の調査結果の取りまとめに留まらず、今度の調査結果の活用方法を検討することが大切である等の意見があった。

(安部部会長)：気候変動対策・循環型社会部会では、環境の柱3（気候変動対策）について、事務局から J-クレジット、循環バスにおけるEVバスの導入、ペロブスカイト太陽電池、水素エネルギーの導入等について説明があり、指標になっている地球温暖化の防止に取り組んでいる人の割合が対基準値と比較して7.7ポイント減少している理由について検討を行った。

環境の柱4（循環型社会）について、事務局からのごみ減量に向けたEM処理剤、生ごみ処理機購入費補助、生ごみ処理機キエーロの頒布、ごみの排出ルール等の説明があり、疑問点を洗い出すことで理解を深めることができた。